

# 風のひろば

AUGUST

2015

vol.6

ごあいさつ

大学の今

トピックス

新任教職員等ご紹介

卒業生インタビュー

看護実習を終えて

研究紹介



## 平成二十七年年度 後援会会長ごあいさつ



大分県立看護科学大学  
後援会会長

早瀬 康 信

木陰とベンチのある芝生広場を  
通って校舎に入る。  
小高い丘に立つキャンパス

は、どの場所からも素晴らしい景色を眺めることができ四季を感じることができます。

広いガラス窓、3階まで吹き抜けのエンターテインメントなどゆとりある学舎は、ここを訪れた人の気持ちを豊かにしてくれます。

看護科学を豊かに学び追求できる環境の大学です。

世界と交流し、地域社会と共に歩む大学、Think globally, act locally! まなに次代の看護を創造できる大学です。

在学中の学生の皆さんは大変恵まれていますね。一度しかない貴重な時間です、いろんなことにチャレンジして素敵な学生生活を送ってください。

私も看護科学大学と学生の皆さんのお手伝いのできることを大変うれしく思っています。

後援会としても皆さんが喜びと誇りを持って有意義な学生生活を送り、将来の夢に向けて大学を巣立っていくことを切に望みながら、精一杯支援していきたくと考えています。

結びに、関係各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## 同窓会『四つ葉会』 会長ごあいさつ



大分県立看護科学大学同窓会  
四つ葉会会長

後藤 成人

この度、本学の同窓会である「四つ葉会」会長に就任いたしました。本学の後藤成人

です。四つ葉会の会長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

四つ葉会会員の皆様におかれましては、日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より四つ葉会の活動に対して、多くのご協力を賜り誠にありがとうございます。心から厚くお礼申し上げます。

さて、本会は大分県立看護科学大学の1期生が卒業した平成14年に創立され、今年で13年目となる若い会ではありますが、設立当時は80名であった卒業生も今では千名を超えました。

これもひとえに四つ葉会会員の皆様や、本学の前身である大分県立厚生学院同窓会草の実会員の皆様のご尽力のおかげであると感謝いたしております。

また、13年間本会会長を務めた江月優子前会長に敬意を表します。

今後とも本会のみならずの発展に寄与できるよう会長として努めてまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

結びに、四つ葉会会員の皆様のより一層のご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

## 学長ごあいさつ



大分県立看護科学大学  
理事長兼学長

村 嶋 幸 代

平成10年に開学した本学も、18年目を迎えました。これまで、平成20年度に

は、日本初となるNP(診療看護師)養成コースを開設し、23年度には学部を看護師教育に特化するとともに、大学院修士課程において保健師、助産師教育を開始するなど、全国に先駆けた看護学教育に取り組んできたところです。

これも、本学の創生期からご尽力くださった方々をはじめ、後援会の皆様、「四つ葉会」並びに本学の前身である厚生学院の同窓会「草の実会」の皆様、教職員等、ご関係の皆様方のご努力の賜であり、深く感謝申し上げます。

本学では、今年、平成27年度から、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」による予防的  
家庭訪問実習を本格実施するとともに、養成教諭(一種免許)養成課程の開設や、新たに創設された「特定行為に係る看護師の研修制度」を活用して、修士課程でのNP教育を一層充実させます。また、将来、多様な保健医療福祉関係機関で働き、地域医療に貢献できる人材の育成を図ります。

これからも、大分県の看護学教育研究拠点としての役割を担って参ります。ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 大学の今

## 日本文理大学とCOCについて 共同記者会見を開催

大学が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることを支援する文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（COC）を実施する大分県立看護科学大学の村嶋幸代学長と日本文理大学の平居孝之学長が、4月28日に大分駅ビル「JRおおいたシティ」において共同記者会見を行い、「大分県における地方創生と地（知）の拠点の役割」をテーマに各大学の取り組み内容について報告しました。

村嶋学長からは「看護学生による予防的家庭訪問実習」の成果を紹介し、引き続き行われた両大学学長の対談では、地域と連携した



教育や研究、大分を担う人材育成について今後の展望を述べました。両大学の「地（知）の拠点」としての活動内容を広く情報発信する機会となりました。

## 特定行為研修指定研修機関に指定されました

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、今後の医療を支えるために保健師助産師看護師法の一部が改正され、平成27年10月1日から手順書により特定行為を行う看護師に対し、「特定行為研修」の受講が義務づけられました。

新たな研修制度は、看護師が手順書により行う特定行為を標準化することで、今後の急性期医療や在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成することを目的としています。

特定行為研修は、厚生労働大臣が指定する指定研修機関で行うこととなっており、本学でこの研修を実施できるよう厚生労働省に申請を行い、8月5日に厚生労働大臣から指定書をいただきました。



## 協会けんぽ大分支部様と包括協定を締結しました

大分県の医療・保健分野における人材育成と職域・地域社会の健康増進等を目的に、全国健康保険協会（協会けんぽ）大分支部様と、3月20日に連携協力に関する包括協定を締結しました。

今後とも地域社会の保健、医療、福祉に貢献できるように取り組んでいきます。



## 評価委員会で最高のS評価をいただきました

本学の第2期中期目標期間（平成24年度～29年度）である平成26年度の業績に対する、地方独立行政法人評価委員会が開催され、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」について、特筆すべき進行状況にあるとして「S評価」をいただきました。

その他、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び情報提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する目標」につきまして

は、計画どおりとしてS評価に次ぐ、「A評価」をいただきました。本学は、今後も、県内の看護教育・研究の拠点として中心的役割を担うとともに、業務運営の効率化等にも取り組んで参ります。

## 第17回看護国際フォーラム

今回のテーマは「看護職を惹きつける魅力ある病院づくり」です。

▶ **日時**  
平成27年10月31日(土)  
12:30～17:00

▶ **場所**  
別府ビーコンプラザ 国際会議場

▶ **参加費**  
一般2,000円、学生500円

※同時通訳用レシーバーは別途1,000円  
応募方法等の詳細は大学ホームページをご覧ください。

## 講演

「看護職の専門性向上  
—マグネットホスピタルからの発信—」  
ポーリーン・J・エイブラハム  
米国メイヨークリニック 看護教育スペシャリスト  
メイヨー医科大学 看護学講師  
アウグスブルク大学 准教授

「いきいきと働きつづけられる  
職場づくりのプロモーション」  
大久保 清子  
福井県立大学看護福祉学部 教授  
日本看護協会 副会長



スコンテストなどが催され、大変盛り上がりました。

お笑いライブや健康チェック、お茶会、ヨガなどにもたくさんの地域の方が訪れてくださり、大盛況でした。

ご支援、ご協力いただきました関係各位に心よりお礼を申し上げます。



## ■ ホームカミングデイ



5月16日、本学、四つ葉会(本学同窓会)、草の実会(本学の前身である厚生学院の同窓会)の共催による、第3回ホームカミングデイを開催しました。

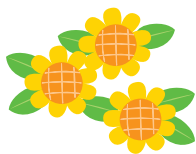
本学食堂で交流会を開催し、77名(四つ葉会22名、草の実会18名、旧教職員3名、現教職員34名)の同窓生等が集まりました。

村嶋学長、同窓会後藤会長、草の実会阿南会長の挨拶の後に、本学4年生の有志によるソーラン節の演舞、卒業生のスピーチが行われました。

その後の懇親会は立食スタイルで行われ、本学に関わりのある多くの方々や、同窓生の懐かしい顔ぶれなどが集まり、大盛況のうちに第3回ホームカミングデイが終了しました。

ご支援、ご協力いただきました関係各位に心よりお礼を申し上げます。

また、今後もホームカミングデイは毎年開催する予定ですので、今後もたくさんの同窓生の参加をお待ちしております。



院入学生代表衛藤泰秀さんによる入学生宣誓の後、学長が「看護師の働く場は地域社会のあらゆるところに広がっている。夢を語り合い実現していけるよう幅広く勉強し、社会から頼られる人材に育ってほしい。」と式辞を述べました。

また、二日市副知事が告辞を述べられ、ご来賓の方々よりご祝辞を頂きました。

最後に全員で大学歌を斉唱し、屋外で記念写真を撮りました。

入学生の皆さん、そしてご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。



## ■ 全学スポーツ交流会

4月24日、学年間の学生交流を目的とした全学スポーツ交流会を開催しました。学生と教員からなるコンタクトグループ計28チームが、ドッジビー(フライングディスクを使用したドッジボール)の頂点を目指して熱戦を繰り広げました。今年度の優勝チームは「ひらけ大分」でした。

交流会当日までのグループでの練習やチームワーク抜群の試合、メンバーへの熱い声援、おいしい昼食を通して、学内の交流が深まった有意義な一日となりました。



## ■ 若葉祭

5月16日、17日に第18回若葉祭(大学祭)が「Color」をテーマに開催されました。

ステージ上では、若葉祭実行委員会によるTAKIOソーラン、富士見が丘長寿会の皆様によるステージ発表、ミスナー

## ■ 卒業式



3月18日、卒業証書・学位記授与式を開催しました。

学部卒業生82名、大学院修士課程看護学専攻修了生18名、大学院博士課程看護学専攻修了生3名、そして大学院博士課程健康科学専攻初の修了生1名の一人一人に村嶋学長から卒業証書および学位記が手渡され、「誠におめでとうございます。これからも看護の技術を高め、社会に出ても仲間と助け合い、豊かな人生を送ってほしい。」と式辞が述べられました。

心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

## ■ 国家試験



2月21日、4年生が看護師国家試験受験に向けて受験地の福岡市に出発しました。

9時50分から村嶋学長の激励のことばと勝栗の贈呈、梅野教授の掛け声、4年生代表の決意表明のあと、教職員が見守る中、笑顔で出発して行きました。

助産師・保健師国家試験を受験する大学院生と学生も壮行会に先立ち、福岡に出発しました。

## ■ 入学式

4月8日、入学式が執り行われました。今年度は、1年次生83名、大学院博士前期(修士)課程20名と後期(博士)課程2名が入学しました。

新入生の名前が一人ずつ読み上げられ、村嶋学長より入学が許可されました。

学部入学生代表平野真彩さんと大学

# 新任教職員のご紹介



生体科学研究室 教授  
濱中 良志

4月に大分大学医学部細胞生物学講座から着任し、解剖・生理学を担当しています。本学では、解剖・生理学を暗記科目から理解する科目に変えたいと思います。

趣味は、英語とテニスで、テニスは木曜日の夕方に、職員・学生方と学内のテニスコートで練習しています。英語は、簡単な単語からなる表現が好きです。

今後とも宜しくお願いします。



保健管理学研究室 教授  
福田 広美

4月から看護管理や在宅看護論等、広域看護学の領域を担当させて頂いております。

在宅看護論実習では、4年生が大分県内にある23か所の訪問看護ステーションで、看護職の皆様在宅看護の素晴らしさを教えて頂いています。

関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

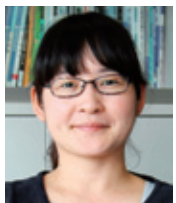


母性看護学研究室 准教授  
矢野 美紀

これまで私は、お産後のお母さんと赤ちゃんに育児の楽しさや母子ともに健やかな日々の暮らしのためにと研究を手掛けてきました。

地元大分県に戻ってまいりましたので、これからは、これまで育てて頂いた恩返しをと思ってまいります。

ここでまた初心に帰り、何事にも誠実に取り組み、全力を尽くしたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



基礎看護学研究室 助教  
石丸 智子

今年度より基礎看護学研究室の助教に着任いたしました。以前は県内の総合病院で働いていました。救急看護に関心があり、研究に取り組んでいます。

着任後は演習や実習指導の一部を担当させて頂いています。臨床での経験を生かして看護学基礎教育や研究、実習指導に取り組みたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



成人・老年看護学研究室 助教  
甲斐 博美

4月から成人・老年看護学研究室に着任いたしました。COCの訪問も始まり、活気あるスタートとなりました。私の元気の源は、皆さんが実習や演習で成長していく姿です。この先もずっと見守っていきたくと思っています。

今後ともよろしくお願ひします。8月からは、NP専任として活動していきますので、興味のある方は研究室へどうぞお越しください。



地域看護学研究室 助教  
緒方 文子

大分が大好きで、これまで何度か旅行には来ていましたが、このたびご縁があつて地域看護学研究室に着任いたしました。

産業保健分野において健康の保持・増進に関する研究に取り組んでいます。

恵まれた学習環境の中で教育や地域貢献の一助を担うとともに、私自身も成長して行きたいと考えています。



看護研究交流センター 助教  
岩崎 りほ

全学的に取り組んでいる予防的家庭訪問実習を担当します。訪問実習を通して、学生の皆さんには、「地域に暮らす住民の力を信じること」、「住民と一緒に考え行動すること」、「予防的視点の重要性」を伝えていきたいです。

学生の皆さん、「地域」、「予防」について一緒に考えましょう。よろしくお願ひします。



母性看護学研究室 助手  
江藤 由布子

私はこれまで東京都内と県内の総合周産期母子医療センターに助産師として勤務し、多くの生命誕生に携わってまいりました。

今後は、講義や研究を通して学問を探究すると共に、自身の臨床経験に基づいて母性看護学の活きた楽しさや生命の尊さを学生の皆さんに伝えていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。



保健管理学研究室 助手  
吉川 加奈子

10年前に本学を卒業後、また大分に戻ってきました。「在宅看護を活かして、その人らしい人生の終焉を迎えられる環境をつくりたい。」これが、今の私の夢です。

大分のおいしいものをたくさん食べて、温泉につかって、また学生の皆さんと一緒に日々勉強していきたいと思っています。

元氣印で頑張ります。よろしくお願ひします。

## ◎事務局グループリーダー紹介

総務グループ 橋本 満男  
教務学生グループ 浜松 弘一

各々5月1日付けで着任いたしました。どうぞよろしくお願ひします。

## 退職教員のご紹介

大変お世話になりました。新任地での活躍を祈念いたします。

職名	氏名	退職年月日	在職期間
教授	中林 博道 様	平成26年12月31日	2年9月
教授	桜井 礼子 様	平成27年3月31日	17年
講師	松本 初美 様	平成27年3月31日	6年
講師	猪俣 理恵 様	平成27年3月31日	5年
助教	河野 梢子 様	平成27年3月31日	8年
助教	江月 優子 様	平成27年3月31日	8年
助教	植田 みゆき 様	平成27年3月31日	3年
助手	水野 優子 様	平成27年3月31日	3年9月
助手	キット 彩乃 様	平成27年3月31日	1年6月

## メッセージご紹介

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部 看護学科 教授 桜井 礼子 様からメッセージをいただきました。

大分での17年間は、たくさんの出会いと貴重な経験を、充実した日々を過ごせたことに感謝しております。

現在私が勤務している看護学科の災害看護学コースは、開設してまだ2年目です。大分県立看護科学大学の開学の頃を思い出しつつ、これから新たな学風を学生とともに創っていきたくと思っています。6月には、今年東京に就職した卒業生に会い、悩みながらも自分の選択した道を一步一步進んでいる姿に、私もがんばろうとの思いを強くしました。

また皆様とお会いできる日を楽しみにしております。





日本赤十字社医療センター 助産師  
姫野 詩織さん(11期生)

みなさんはNICU(新生児集中治療室)と聞いてどんな世界を思い浮かべますか? 私が抱いていたNICUのイメージは「暗い、悲しい、かわいそう」というマイナスなものでした。

そんな私は、平成23年度に本学を卒業し、日本赤十字社医療センターに助産師として入職しました。もちろん産科配属を希望して。しかし入社式で通知された私の配属先は、奇しくもNICUでした。

治療が行われている子どもたちを、NICUで初めて目にした私の正直な感想はやはり、「かわいそう」でした。想像以上の子どもたちの小ささに愕然とし、触れただけで壊れてしまいそうな小さな生命を前に、恐怖すら覚えました。しかし、懸命に生きようとする子どもたちの力強い生命を日々目の当たりにし、子どもたちに対する私の感情は、「かわいい」「愛おしい」へと次第に変化していききました。子どもを育て、家族をつくっていくNICUで、私自身も日々育てられていくと感じます。

言葉として自らの意思を伝えることのできない子どもたちの看護を行うことは、何を求められているのか、どんな状況なのか、苦しいのか、痛いのか、嬉しいのか、

等、様々なことを考え、予測していかなければならず、とても難しいです。あらゆる状況に置かれた子どもや家族の前に、「本当にこれで良いのだろうか」と悩み迷うことは今でも多々あります。だからこそ、彼らの発しているサインを一つ一つ丁寧に読み解きながら接することを私は大切にしていきたいし、これからは子どもたちの将来を見据えたNICUケアができるようにしていきたいと強く思います。

より子どもたちとその家族の支えになることができるよう、「助産師として」自己研鑽しながら、これからも成長していきたいです。



大分赤十字病院 看護師  
宮本 義定さん(11期生)

私は本学を平成23年度に卒業し、東京にある大森赤十字病院に就職しました。

一年目は消化器・泌尿器・眼・乳腺外科の混合病棟で勤務してました。一年目であり日々新たな経験を通して、多くの学び・気付きを得る毎日でした。毎日必死に仕事と勉強を繰り返してました。

術後の患者さんの経過は早く、入院期間も短いため、どのようにして患者さんと信頼関係を築いていくか悩みました。そんな時、先

輩や同期に助言をもらい、支えていただき乗り越えることができました。

一年目で経験したことは、とても印象深く今の自分自身の支えや自信につながっています。二年目からは大分赤十字病院に転入し、ここでは糖尿病・膠原病内科、歯科・口腔外科での勤務となりました。

外科病棟から内科病棟への異動は、大きな違いがあるのでないかと考え、期待よりも不安が大きかったのを覚えています。しかし、実際に勤務してみても患者さんとの違いはありませんが、患者さんに関わる中で、基本的な看護の姿勢は変わらないという事を気づかされました。また、1年目の外科病棟での経験や知識は、複数の既往歴を持つている患者さんや、手術前の血糖コントロールで入院している患者さんへの関わりではとても役立ちました。

現在は新しく神経内科が編入され4科の混合病棟となつています。神経内科では状態の観察に注意が必要な患者さんも多く、急変の場に幾度も立ち会いました。最初の頃は急変の場面でもできずに慌てていました。しかし、その経験をjて急変時の看護について興味を持つようになりました。急変時の看護について学習していく中でICLSに興味を持ち、現在はICLSのインストラクターを目指して日々学習に取り組んでいます。

今後、より多くの患者さんに寄り添いながら看護が提供できるように努力していきたいと思っています。

## 看護実習を終えて

### 「在宅看護論実習」

地域で暮らす在宅療養者の生活は、病院実習からでは中々想像することができないと思いました。

在宅療養者は、地域で、疾患や障がいをもちながらも“その人らしく”家族や地域の人たちと一緒に生活していました。私は3歳の男の子を受け持ち、疾患より恐らく入院生活ではベッド上安静の状態になる可能性がある子でした。しかしその男の子は自宅で医師の診療や訪問看護を受け、様々な問題を抱えながらも、成長発達にあった人との関わりや遊びをしながら普通のお子さんとはほぼ変わらない生活を送っていました。

疾患・障がいがある、入院などは、その人の人生のなかのほんの一部の姿にしか過ぎないと思いました。

訪問看護では、療養者とその家族の生活スタイルを維持しながらもその治療的部分に関わるために、生活や今までの人生、地域の特色などから、その対象者の方の全体像を捉えることがとても大切だと、今回の在宅看護論実習で学びました。

4年次生 北野 真菜



### 「総合看護学実習」

私は大分県立病院の小児科病棟で5歳の幼児を受け持ち、疾患や治療についてだけでなく、長期入院によるストレスや付き添いの母親の不安、発達段階など多角的視点から児を捉えることを心掛けました。援助や遊びを通して患児とじっくり関わり、児の言動から言葉で伝えられない苦痛や思いを汲み取る力を養えました。

理解力や発達段階を踏まえて、薬の副作用についての絵本や感染予防行動を促すポスターを手作りし、児と楽しく病気について考える機会を設けるなど、学生として出来ることを精一杯行いました。児と家族の笑顔が頑張れる源となり、最後まで楽しく学びのある実習となりました。

看護師になっても患者への思いやりを忘れずに患者本位の看護を提供したいです。

4年次生 竹島舞季子



## 診療看護師教育と修了生の活躍

ナースプラクティショナー(NP)とは、医学的知識と高度な技術を兼ね備えた高度実践看護師の職種の一つです。1965年、米国コロラド大学で育成が開始されたNPは、その後様々な国で導入されて現在に至っています。

大分県立看護科学大学は、米国NP育成開始から40年経った2005年に「NPプロジェクト」を立ち上げました。筆者は言語学的立場で、本学のNP教育体制の構築および教育と研究を担当しています。NP国際会議の開催、NP養成専門家の招へい、本学看護教員の米国視察派遣を通し、本学はNP教育に関する情報や知識を蓄積してきました。その結果、多くの関係医療機関の理解と協力を得て、2008年、本学は大学院にて「NPコース」をスタートしました。また、NPコース修了生が現場で働くことを可能にするための「医療特区」を内閣府に申請し、その実現を図る試みが、2014年6月に国会にて「特定行為に係る看護師養成制度」法制化に結実しました。

こうした本学NP教育の変遷を、国際的看護学術誌International Nursing Review (INR) に発表していただきました (Fukuda, MIYAUCHI, Tonai et al. The first nurse practitioner graduate programme in Japan. INR, 61, 487-490, 2014)。また、本誌2014年4号にて本学小野美喜教授が紹介した研究についても先のINRに報告しています (Ono, MIYAUCHI, Edzuki et al. Japanese nurse practitioner practice and outcomes in a nursing home. INR, 62, 275-279, 2015)。米国コロラド大学看護学部の名誉教授Kathy Magivy先生の助言を得ながら、日本における「診療看護師(NP)」の教育養成とその修了生たちの現場での活躍成果を研究論文として世界に発信すべく、2015年も新たな研究論文の国際学術誌への投稿を準備中です。また、文部科学省科学研究費助成金を活用し、本年7月にはNP発祥の地コロラド大学大学院を訪問視察し、その後、全米NPシンポジウムに参加して、米国でのNPに関する最新情報を収集する機会をいただいています。今後も日本の診療看護師(NP)の進化発展にご期待ください。



言語学研究室 准教授  
宮内 信治

## Research introduction

# 研究紹介

## 救急部門で勤務する看護師は自傷患者にどのように関わっているか

わが国において、中高年の自殺は減少傾向ですが、若者の自殺は増えています。

若者の中には、命に関わらない程度に自分を傷つける自傷患者も増えており、その後の自殺リスクは高いと言われます。そのため、自傷者を含め自殺未遂者への対応は、その後の自殺を防ぐために重要な課題といえます。

しかし、命を救う場所である救急部門の看護師は、自ら身体を傷つけて受診した患者に対し否定的な感情を抱きやすく、対応に不安や困難を感じ患者を回避する傾向にあると言われます。

そこで救急部門の看護師に、自傷患者にどのように関わっているか、どんな認識を持っているか調査しました。

その結果、ほとんどの看護師は自傷患者の救命と傾聴に努めていました。しかし、「処置が終わったらしらっとしておく」「あたりさわりなく関わる」といった回避的関わりをする看護師も8割にのぼりました。

自傷により心のバランスをとっているケースもあり、「自傷をやめるよう説得」したり、「叱る」ことは推奨されませんが、その関わりは1割以下でした。しかし、再企図リスクアセスメントにつながる「どんな理由で自傷したのかたずねる」のが5割、「死にたいかどうかたずねる」のは3割にとどまりました。

看護師の認識の面では、「自傷患者に関わると嫌な気分になる」「自分で傷つけたのに助けを求めてく

るのは腹立たしい」と否定的感情を持っているのは4割でしたが、「どう対応したらよいかわからない」「不安」と7割が答え、自分には知識・技術がないと認識している看護師が多いことがわかりました。

一方で、自傷患者に積極的に関わろうとしている看護師の特徴は、これまでに対応した自傷患者の数が多く、自傷患者の看護にやりがいを感じていること、自分の気持ちを同僚に表現できること、対応する時の不安が低いこと、救急で研修を受けたこと、がありました。

まずは看護師自身が、自傷患者にどのように対応すると良いかを学ぶことが大切ですが、実際の対応を看護師個人にまかせるのではなく、院内の体制として準備することを通して看護師の不安を軽減し、自傷患者への看護のやりがい感を高めることが適切な関わりにつながるのでないかと考えます。

今後は、組織としてのケアの準備を視点を検討し、自傷患者さんにはもちろん救急部門の看護師への支援となる研究を続けたいと考えています。



精神看護学研究室 講師  
杉本 圭以子

**附属図書館から「附属図書館吊り天井耐震化工事」に伴う利用制限についてお知らせです。**

工事期間(2015年8月～11月<予定>)では、図書館1階半分が工事区域となります。

工事区域にある資料は工事区域外に移動し、図書館の通常サービスをできる限り維持したいと考えていますが、やむを得ず一部設備・資料について利用制限を行います。

ご不便をおかけして申し訳ございませんが、ご了承くださいますようお願いいたします。

大分県立看護科学大学附属図書館  
TEL 097-586-4330  
<http://www.oita-nhs.ac.jp/library/>

**ご寄附ありがとうございました**

ご寄附は、大学の運営のため、大切に活用させていただきます。

韓国カトリック大学看護学科  
Nam-kim教授様



村嶋学長とKim先生(前列左から3人目)及び大学教職員

**看科大[6号]クイズ・プレゼント**

**問題**

**「○○○○研修  
指定研修機関」**

○の中に正しい文字を入れ、下記のとおりハガキでご応募いただくか、クイズの答えなど1～5までを記載してメール([somu@oita-nhs.ac.jp](mailto:somu@oita-nhs.ac.jp))でご応募ください。正解者の中から抽選で3名様に図書カード(2,000円分)をプレゼントします。

<p>郵便はがき</p> <p style="text-align: center;"><b>8701201</b></p> <p style="text-align: center;">大分県立看護科学大学 事務局 行</p>	<p>大分市大字廻栖野2944-9</p> <p>1. クイズの答え 2. 郵便番号 3. 住所 4. 氏名(年齢) 5. 記事のご感想や 本学へのご意見</p>
--	---

**【締め切り】9月末日** 当日消印有効

当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

**看護ひとくち**

**食中毒予防の  
三原則と10箇条**



食中毒の原因には細菌やウイルスがありますが、梅雨時から9月頃までは高温多湿な状態が続き、細菌がたやすく食中毒が多く発生します。

食事の準備をするときには、食中毒予防の三原則、細菌を「つけない」「増やさない」、加熱等で「やっつける」を心がけ、食中毒を防ぎましょう。

**食中毒予防の三原則**

- 1 食中毒の原因菌をつけない
- 2 食中毒の原因菌を増やさない
- 3 食中毒の原因菌をやっつける

**食中毒予防の10か条**

- 第1条 調理の前によく手を洗うこと。直接手で食べ物に触れるときはまめに洗うことが必要。食べる前には必ず手を洗う。
- 第2条 包丁、まな板、布巾などは、洗剤でよく洗い、日光や熱湯で消毒する。
- 第3条 煮物、焼き物は十分火を通す。肉やモツ、鶏卵の中に菌がいる。
- 第4条 臭いや新鮮度に気をつける。危ないと感じたら思い切って捨てる。
- 第5条 夏季には生ものを避ける。酢を上手に使うのも一法。
- 第6条 冷蔵庫を過信しないこと、頻繁なドアの開け閉めを避ける。週1回は庫内のそうじをする。
- 第7条 調理台や流しはいつも清潔に保つ。流しの生ごみを放置しない。
- 第8条 子供がペットなどと遊んだ後、よく手を洗わせる。犬、猫、ミドリガメからも病原菌がうつる。
- 第9条 海外旅行では、生水を飲まない。生ものを食べない。オンザロックの氷も要注意。
- 第10条 からだが弱っているとき、疲れているときは消化のよい、よく火の通った食べ物をとること。

**Schedule [スケジュール]**

8月	29日(土)	大学院入学試験
9月	5日(土) 4日(金)～11月27日(金)	夏季休業終了 成人急性期実習、成人・老年看護学慢性期実習、小児・母性・精神看護学実習(3年次生) 前期授業終了
	30日(水)	後期授業開始 看護国際フォーラム
10月	1日(木) 31日(土)	
11月	21日(土)	特別選抜試験 (推薦・社会人)
12月	10日(木)～11日(金) 24日(木)	卒業研究発表会 冬季休業開始

注)スケジュールは、変更になる場合があります。

